

# 愛知学院大学の国際貢献

## 医療交流から 経済交流新時代へ

愛知学院大学 夏目 長門教授に聞く

### 愛知の歯科人道支援が結実

愛知県は今秋、大村秀章知事がベトナムを訪問、ホーチミン市と友好交流協定の覚書を締結した。また、人道援助のための医薬品輸出の覚書の調印も行われ、将来的な経済交流への扉も開いた。愛知学院大学歯学部付属病院（名古屋千種区）に本部のある口唇口蓋裂協会（川口文夫理事長、以下協会）、大学が二五年にわたり無償手術など人道支援をしてきた成果といえる。協会常務理事で、援助を主導、交流の契機を作った夏目長門同大教授に聞いた。

「一九九二年、ベトナム南部の

ベンチエ省（ホーチミン市から南西九〇km）知事から『口唇口蓋裂の患者が多いが、手術できる医師がいない』、と医療支援要請の手紙を受け、翌年から現地で無償手術を始めました。ベトナム戦争の激戦地であり、枯葉剤が原因で、患者数はおよそ二〇万人と推計されました。多くの関係者の協力でも設置。初期には六十代の患者もいましたが、次第に乳幼児の手術が中心になり、保護者の方に喜んでいただきました。当時の支援に

夏目教授は協会、大学の四半世紀に及ぶ医療支援が人口一〇〇〇万人のベトナム最大の都市ホーチミンと愛知の交流の架け橋を築いたと指摘する。

理解を示し、ベンチエ省の省長も務めたフォン氏が昨年、ホーチミンの市長となり、大村知事の決断で、今回の覚書の調印に至りました。

ベトナムは日本とほぼ同じ国土面積で、人口は約九〇〇〇万人。在日ベトナム人のうち、愛知県には一万六〇〇〇人が居住、東京の二万二〇〇〇人に次ぐ第二位。今年は昨年に比べて日本からベトナムへは一五%、ベトナムから日本へは三〇%、それぞれ訪問者が増加している。

両国関係の進展は、歯科医療面での支援が底支えしたのは間違いない。今回の大村知事によるベトナム訪問で、夏目教授が中心と

た。